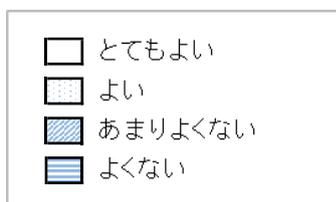


令和5年度 学校経営報告

府中市立四谷小学校校長 山中 慈子

1.令和5年度 学校経営の成果と課題

※文中のグラフの文様は



を表している。

(1)「安心・安全で生き生きと過ごせる学校」づくり

① 道徳教育の充実

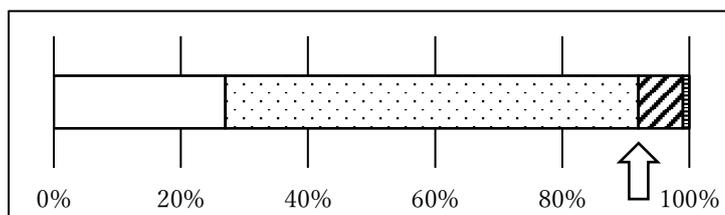
授業では、「考える道徳」を目指して自分ならどうするかを考える取組を続けてきた。道徳授業地区公開講座は、校内での参観とオンラインでの家庭への配信を同時並行で行った。授業の振り返りでの内容を実生活に結び付けられるよう、これからも指導していく。本校は数年かけて作成および整理した教材が整備されており、それを活用することで道徳教育の充実を図っている。また、学年のクラス間で交換授業を行っており、その取組をこれからも続けていく。

② 健康への意識向上

今年度は、体育の授業に取り込んだり、児童集会で取り上げたりするなどして継続を図った。縄跳びのロープチャレンジを授業や集会で重点的に取り組んだり、走力を付けるランランタイムを3学期の1・2月にどの学年も体育の授業の始めに帯で行ったりするなど、より児童が意識して取り組めるように改変した。また一昨年度取り組んだコーディネーショントレーニングを今年度も継続して授業に組み込んだ。東京都体力調査結果からは、ソフトボール投げは男子が全体的に向上した。女子も改善し、学年が上がるにつれ良くなっていることが分かった。また、男女共立ち幅跳びも学年が上がるにつれ結果が良くなっていた。しかし、シャトルランは改善が見られたがまだ力を付ける必要がある。走力、瞬発力を付けるために、来年度も体力向上委員会を中心に学校全体で体力づくりに取り組んでいく。

・学校は、体力の向上や健康を保つための指導をしている。

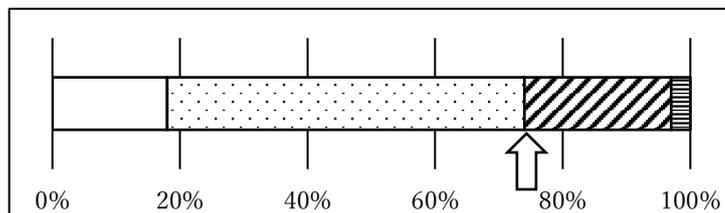
(保護者アンケート項目より)



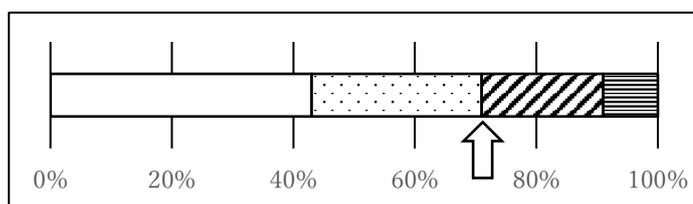
③ 社会生活上のルールを理解し、実践するとともに安全教育の充実を図る。

よつやキッズセブン(四谷小の生活の心得)の中の挨拶について取り立てて指導するとともに、他項目についても朝会等で注意を促した。

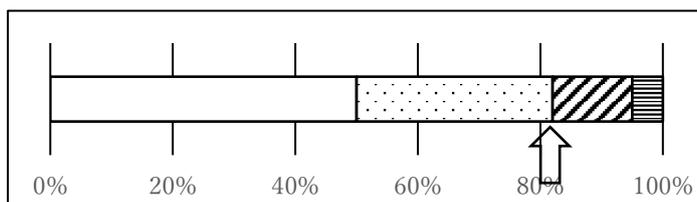
- ・お子さんは、家庭や地域ですすんで挨拶ができる。(保護者アンケート項目より)



- ・保護者や地域の人にすすんであいさつをしていますか。(児童アンケート項目より)



- ・先生や友達にすすんであいさつをしていますか。(児童アンケート項目より)

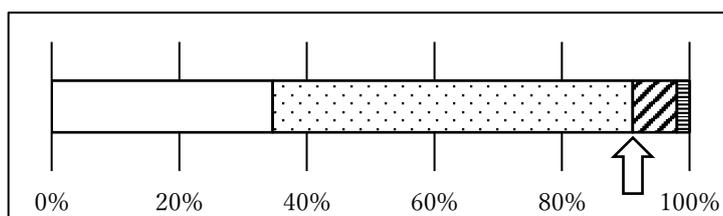


学校で挨拶に力を入れて取り組んでいるときは挨拶を自らする児童が増えるが、取組月が終わるとまた減少する傾向があり、減少が感じられるときは小まめに朝会や学級指導を行った。前出の傾向は今もあるが、注意を促すことによる効果はあるので、これからも年間で繰り返し粘り強く取り組んでいく。

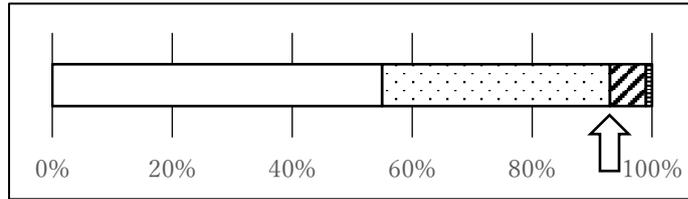
(2)「児童も教師も学び、切磋琢磨する学校」づくり

① 基礎的な知識の定着と学習意欲の向上

- ・学校は、楽しく分かりやすい授業を進めている。(保護者アンケート項目より)



- ・授業の内容はわかりますか。(児童アンケート項目より)



今年度も昨年度に引き続き、校内研究で国語科の説明文を取り扱った。全学年の授業の中で説明文に対する児童の取組がより前向きに感じられるようになってきている。また、クロムブックを使うことはどの学年でも当たり前に扱い、児童はスムーズに立ち上げて活用している。クロムブックでのクラスルームでの課題配布やジャムボードを利用した話し合い活動など、日常的に使われている。児童の学習への理解がより深まるようこれからも工夫を重ねていく。

② 課題を解決する力の向上

どの教科でも、課題をもち、個人→グループや集団→個人と考えを深める過程を大切にするなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業に取り組み、改善に努めている。6年生の全国学力調査の結果も昨年度に引き続きよい方向であった。これからも地道な努力を続けていく。

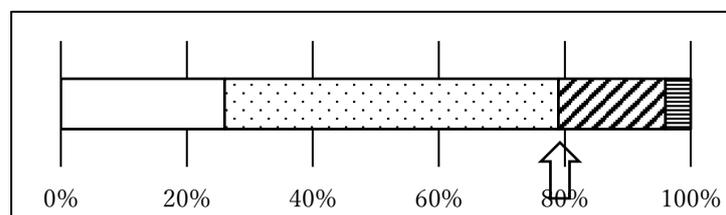
③ 社会の変化への対応力を高める

学級活動や学年活動、児童会活動等を様々な形で実践してきた。児童の作成したビデオによる委員会のビデオ集会や実際に全校で集まったの児童集会、全校で行ったスマイルヨツヤランド、学年それぞれが工夫を凝らし、心のこもった場をもつことができた6年生を送る会など、昨年度より多彩な実践が行えた。児童は前年度とは異なる対応であっても理解して、自分たちで場に応じた行動をとっている姿が見受けられた。特に6年生は自分たちで企画立案して、変化にも対応して行う姿が見られ、自主性の醸成が感じられた。また、学級会のもち方の研修会を校内で行い、話し合い活動の更なる向上を目指した。変化する社会に対応できる力を高めるよう実践していく。

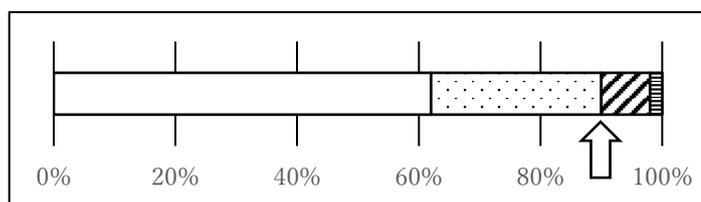
(3) 「保護者・地域と連携し、地域の母校として愛される学校」づくり

① 家庭教育の充実

・お子さんは、家庭学習をする習慣が身に付いている。(保護者アンケート項目より)



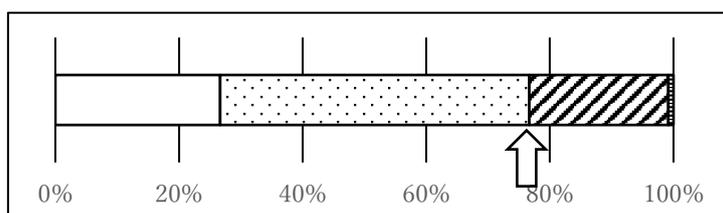
- ・宿題など、家での学習はすすんでできていますか。(児童アンケート項目より)



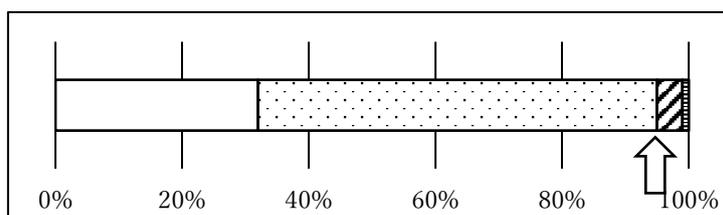
家庭学習が保護者では 8 割弱が肯定的な回答であるのに対し、9 割をこえる児童が肯定的な回答であった。昨年度とこの傾向は変わらない。「子供はできていると思っているが、親はそう思っていない」というご家庭が 1 割以上あると思われる。宿題を何等かの形で家庭に知らせたり、e ライブラリの活用などを行ったり、宿題に関するものを持ち帰ったりしている。これからも家庭と連携して家庭教育の充実に取り組んでいく。

② 保護者への支援

(前期)



(後期)



スマート連絡帳を活用し、学校だよりをオンラインで配信する方法に切り替えた。紙ベースが必要な家庭には個別に対応し、また、ホームページ、メール等でも情報の発信に努めた。前期に比べ、より肯定的な評価を頂いた。発信の内容を検討し、工夫しながらこれからも続けていく。担任を始めとする教職員やスクールカウンセラーへの相談など、保護者が気軽に行って構わないことをこれからも周知していく。

PTA の本部役員の方々は、学校と連携しながら、従来通りの活動の難しいものを今後のことを考慮してやり方を変えたり、新しい試みを取り入れたりした。より保護者に

とって学校が身近に感じられ、そして活動しやすい PTA を目指して、様々な改革に取り組まれている。これからも学校、PTA 双方協力してよりよい学校を目指していく。

③ 地域との連携を推進する

令和 6 年度の 50 周年行事に向けて、年度当初より地域の方のご協力を頂いて準備を進めてきた。学校・地域・保護者の連携が良く、お互いの理解も進んでいることが感じられる。どんど焼きなどの地域行事に参加したり、授業の中で府中かんきょうの会の方と自然観察をしたり、子供たちのことを思ってくださいるボランティアの方のお話を伺ったり、府中市の踊りや田植え等を体験したりすることを今年度も実践できた。中庭の花壇の整備にも地域のボランティアの方々が積極的に力を貸していただき、授業の中で 1 年生との交流も図ることができた。スクールコミュニティ協議会委員の皆様をはじめ、地域で学校に関わってくださっている皆様とともに「ふちゅう子」を育てる観点で、これからも地域の方々のご協力を得ながらふるさと学習を進めていきたい。来年度も状況を鑑みながら、地域との連携を図っていく。

(4) 人材・予算の活用

特別に支援を必要とする児童やクラスに対応するための支援員を、学級や学校運営に効果的に活用した。今年度も人手を必要とするところに計画的に配置してきた。人的配置を必要とする部分がまだあり、予算的にも人員の人数的にも厳しい面もあるが、学校全体をみてどのように配置・活用していくかが考え、更によりよく活用していく。

(5) 人材の育成

若手の育成は、年度当初に担当が年間計画を立てて取り組んでいる。関係教員とは途中経過で弾力的に様子を見ながら変更を加え、より良い指導内容となるよう努めた。また、今年度も校務分掌で中堅教員と若手を組み合わせるなど教員の力量の向上を図った。各主任教諭が組織の中でそれぞれ中心となる分掌に副担当を配置し、教育技術が受け継がれるよう OJT も進めてきた。校内研究やテーマのある授業観察、学年や分掌での打ち合わせや協力した取組などを通して、個人の力量向上に努めた。高学年では、一部教科担任制を取り入れ、力量向上に努めた。今後もより効果的に向上するよう組織的に取り組んでいく。

(6) 施設・設備

トイレの改修工事が 2 月末に完了し、明るく使いやすいトイレとなった。「みんなのトイレ」も 1 階に増設した。増加が見込まれる学級数への対応で、1 階給食室前の教室化や PTA 室の新設、教材室の移動も計画的にスムーズに行うことができた。芝生は今年度順調に育成・整備でき、関わった児童・保護者・教員・業者の努力が実った。中庭

の整備も徐々に進んでいる。老朽化に伴い撤去せざるを得ない作品については、写真で保存し、その旨を周知した後取り組んだ。今後も学校全体の教室やその他の施設の使用を見直し、学校施設課と相談しながら整備を行っていく。